

2023年7月13日

学校法人三幸学園
東京保育医療秘書専門学校
校長 清水 智之 殿

学校関係者評価委員会
委員長 横山 耕太

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 横山 耕太 (飛鳥未来きずな高等学校立川キャンパス キャンパス長)
- ② 田中 寿美子 (医療法人社団さいわいこどもクリニック 副院長)
- ③ 山口 瑞希 (第2期卒業生)
- ④ 伊藤 ブライアン茂紀 (ぼけっとランド立川保育園 園長)
- ⑤ 戸館 遥 (第6期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月14日 (会場 東京保育医療秘書専門学校 図書室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 東京保育医療秘書専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高橋 夕子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 横山 耕太

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・学校方針「一緒に仕事をしたい人材を育てる」という目標のもと、授業・行事・実習・就職・学校生活指導全般の指導を行った。

・カリキュラムマップに基づき、学習内容の順次性と、教科間の関連性を意識した授業展開を強化した。

・ディプロマ・ポリシーに基づき、各教科が卒業までに身に着けるべき能力のどの項目と関連するかを意識した授業展開を強化した。

コロナ禍の影響も残り、多様性を求められる中、「一緒に仕事をしたい人材」という目標の基に、学校運営を行った。その結果、両分野とも高い実習評価・検定合格率・就職率を残すことができた。

一方で、コロナ禍終息に伴い、行事・授業展開等が常時に戻る中での生徒の戸惑いも感じられ、平時に戻すことが目的とならないように確認しながら進めていく必要性を感じた。

② 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員(両科について)

卒業生の戸館さんを採用した経緯は、人として基本的な行動を体得していることはもちろんだが、コロナ禍という不安が多い中でも、前向きな人材を求めていた。そのような中で、教え子でもあり、実習している姿を見て、ポジティブさを評価し、一緒に仕事をしたいと思い採用させてもらった。

田中委員(両科について)

コロナ禍で大変な中だったこともあり、すぐに気持ちが折れてしまう人は、今後様々な人間関係の中でもきっと折れてしまう。忍耐力のある人、困難も前向きにとらえられる人がより求められようになったように思う。加えて、笑顔で挨拶できる人は必須。意識して笑顔でいられる人は、患者さんも子どもも笑顔にできる人なので、一緒に働きたいと思える人材。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・マッチングや妥当性。
- ・生徒、保護者との継続した浸透。

② 今後の改善方策

- ・継続した情報収集を幅広く行なっていく。
- ・保護者へ発送している定期通信に意識的に盛り込む。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員(両科について)

社会のニーズのキャッチ方法については、SNS や文科省から発信される資料の根拠資料を探るようにしている。時には、生徒に直接聞くこともある。最近は特に生徒のマインドの変化を感じることも多い。自分のペースで学べるからという理由で通信制を選んで入学する生徒が多い。そんな社会情勢に合わせて、入り口を広くしている一方、社会に送り出す前の最後の教育機関であるため、入学してからの指導も難しさを感じる。退学に対する考え方も軽い気持ちで退学の決断をする生徒もあり、自分達の時代と同じように指導していたのでは、通用しないため生徒一人一人に合わせた指導が求められてきていると感じる。

伊藤委員(保育科について)

昨今、不適切な保育が表に出ることが多い。人を育てることは素敵なことだが、その一部を切り取られてしまっている。目的を持って、理念を持って保育をしており、遊びを通して子どもの何を伸ばしていきたいのか園としては、考え方ももっと発信すべきだと感じ、また発信方法も工夫が必要だと感じる。大切な乳児期の人格を育てている時期に何を目標しているかを理解して入園して頂るので、保護者に対してもっと発信できるようにしていきたいと思っている。

田中委員(両科について)

そもそも若者の意志がなくなっているように感じる。若者の意志に適合するような社会にはまだなっていない以上、社会が変わらないといけないのか、若者に対する指導を変えていくべきなのかを考えていくべきなのかもしれない。何をやりたいのかを掘り下げて知ることやその人に合った働きやすい職場環境を作っていくことが必要なのかもしれない。何かをやってみたい！という思える職場を作っていきたい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・教職員間の情報リテラシーの個人差。

② 今後の改善方策

・学内勉強会の実施。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

山口委員(医療秘書科について)

元々パソコンが苦手だったので、情報処理の授業があったことは、現場に立った時にも非常に役に立った。小児科のため、壁面等の作成をすることもあるが、パワーポイントを身に付けることができれば、より就職後に役に立つように感じる。

戸館委員(両科について)

在学時代のICT 関連について感じたことは、コロナ禍になり、すぐにオンライン授業を取り入れて頂いたことは良かったが、対面に戻るのが早かったような印象を受けた。また、自宅にパソコンがない人や、通信環境の不具合で回線が途切れたり、個人の環境の差が大きかったように感じた。就職して 4 か月経過した現在、タイピングの速さが課題だと感じるため、1 年生の時だけでなく、継続してパソコンの授業があった方が良かったように感じる。

山口委員(医療秘書科について)

経験を重ねてくると外部で発表する場面もあるが、やりたいイメージは持っていても、使い方がわからないこともあるため、Excel でのデータ分析やパワーポイントの多様な使い方が出来るようになったら、就職してからも活かせる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・講義授業、演習授業、外部実習までの流れの体系的な位置づけが弱い。

② 今後の改善方策

・カリキュラムマップの浸透・活用による教科間連携を強化する。
・体系的且つ全体像を実習指導やHRにて示す。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

戸館委員（保育科について）

1年生の時点では、保育の知識もまだ浅いため、その先の実習を見据えて体系的にとらえることは難しいように感じる。実際、自分が1年生のボランティアでは、保育の現場を知ることだけが目的だったが、2年生になると意識も変わり、働く未来を想像しながら、実習に取り組むように徐々になっていくように感じる。

山口委員(医療秘書科について)

最初は何もわからず実習に行っていたが、患者さんを目の前にすると徐々に意識も変わっていった。学んだことが実習を通して繋がり、学びが深くなっていった。

伊藤委員(保育科について)

大学生と専門学校生の実習生としての違いは、大学生は3年生から実習のため、専門学校生と1年～2年の差があるので、視点の持ち方が違う。専門学校生は目的を聞いても答えられない生徒もいる。

何のために行くのかを明確にし、生徒から何をしたいのかを引き出していくことに意識する必要があるのかもしれない。

田中委員(医療秘書科について)

実習を受け入れる側として、目的意識は最低限持ってきてほしい。あとは、笑顔で挨拶ができれば、それ以上の高いレベルは求めてはいない。

山口委員(医療秘書科について)

在学当時、4週間の実習が長いという印象だったので、1週間現場を経験した後、改めての3週間の実習に臨む方が学ぶ意識の変化を持って取り組むことができるかもしれない。

戸館委員(保育科について)

在学当時、実習に対して自分を含めて多くの生徒は、前向きな気持ちで臨むことが出来ていなかったように感じる。実習を希望した園から受け入れてもらうことが出来なかったこともその要因の一つだった。

伊藤委員(保育科について)

実習を前向きに取り組むためには、実習の中で一番の関門となる日誌に対するネガティブな印象を変える必要があるのではないか。自分の意見を書くことの楽しさ、発表する楽しさを感じられないと日誌に前向きに取り組むことが難しいのではないか。実習に対するモチベーションの差は、質問の多さにも比例する。授業の中で意見を交わすこと、自分の意見を発信する機会を増やしていくことを意識してはどうか。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率が、コロナ禍前の平時の数値に戻っている。

② 今後の改善方策

・授業や行事が対面に戻る環境への戸惑いや人間関係構築において、担任と教科担当が連携情報共有をしながら生徒指導にあたる。スクールカウンセラーへの適時案内、保護者との連携を強化。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員(両科について)

高校では、コロナで自分のペース・スペースを保たれていたのが、それが平時に戻り、崩れたことで、人間関係の面での影響は顕著に出ている。退学率は現在平均4%程。(コロナ禍3%台)保護者も生徒に寄り添う方と、生徒に任せる保護者と二極化している。小さなトラブルで退学する生徒もいる。働きながら登校している生徒が、進学せず就職するという進路を選択する生徒もいる。

就職に対しては、1年生から意識付けをホームルーム等でしている。1年生ではまだ具体的にイメージ出来ている生徒は少ないが、2年生になった時には1年間意識付けしていた成果も出ている。

10年前と比較すると、通信制に対する社会の受け皿としての変化を強く感じる。通信制を受け入れてくださる就職先も増えている。

田中委員(医療秘書科について)

就職を受け入れる側としては、その人自身が一番重要なので、学校の就職率は特に気にならない。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・姉妹校以外の連携強化。

② 今後の改善方策

- ・キャリア教育・職業教育の周知。

③ 特記事項

- ・立川市教育委員会等協賛のもと、中学生向けお仕事体験イベントを開催(2021～)
- ・小平第4中学校(職業体験授業)連携(2022～)

④ 学校関係者評価委員会コメント

戸館委員(両科について)

基本的には、卒業したら学校からの支援を求めていなかったが、同窓会のような場があれば、いろんな園の情報共有もできるのも嬉しい。

山口委員(両科について)

コロナ禍は特に、交流する機会も制限されることも多いので、同窓会のような場があれば嬉しい。職場の発表をする機会があれば、より深い情報共有ができるのではないかな。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・こども総合学科 3 年生のインターンシップは、受け入れ先のご理解や業務の差が生じている。

② 今後の改善方策

・依頼の時期を早め、余裕を持ったスケジュールで主旨を受け入れ先のご理解をいただいた上で進めていく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

伊藤委員(保育科について)

インターンシップ生の受け入れについては、園でも依頼があった際に話し合いをしたが、園の規模に寄っては受け入れやすいのではないかと。本園は、規模が小さいこともあり、週に 1 回だと職員や子どもとの関係性の構築という意味でも、受け入れが難しかった。1クラスの数が増えれば、業務も増えるので、受け入れてもらいやすいのではないかと。

田中委員(医療秘書科について)

現在インターンシップ生を 2 人受け入れているが、受け入れる側としても役割が明確化できていないのが現状。週 1 回だと関わる人も固定されてしまい、様々な人数との関わりも社会に出る上で学んでほしいため、週 2 回で時間を半分にすることが出来れば良いのではないかと。

給与の有無については、給与をもらっている分、肩身が狭いと感じる生徒もいるため、生徒次第ではないかと。現在受け入れている生徒の中には、もう 1 日アルバイトでやらせてほしいと前向きになっている生徒もいる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・地域連携（親子参加型）イベントを開催。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナが収束し平時に戻つつある中、社会情勢も大きく変化する中で社会のニーズを捉えていくことや、若者の意志の変化に合わせた指導を意識する必要性を改めて感じる。実習に行く目的の明確化や意欲の向上のためにも、授業の中で生徒が発信する機会を増やしていきたい。

また、「一緒に仕事をしたい人材」とはどんな人材か、今回ご意見を頂き、学科問わず人としての素質と社会に出てからも適応できるポジティブな意志が大切であることを再確認ができたので、まずは職員が生徒に示す意味でも一緒に仕事をしたいと思える職員育成をしていきたい。

今年度は、大きな行事もコロナ前の大きな規模に戻るため、生徒がより成長できる機会も増えるので、学校一丸となって、逞しく前向きに働ける社会人育成に取り組んでいきたい。